

2010年3月期(2009年度)第3四半期決算説明会における質疑応答

質疑応答

- ・ : 質問

→ : NECの回答

* 前回予想とは、10月29日(第2四半期決算発表)時点の予想です

質問者 A

- ・ ネットワークシステム事業のパソリンクや海底ケーブルシステムについて、第3四半期の状況および来年度以降の見方を教えてください。また、パソリンクについて、今後さらに固定費を削減することはできますか
 - パソリンクの第3四半期の売上実績は08年度約400億円でしたが、09年度は約250億円となりました。通期では、08年度は約1,500億円でしたが、09年度は前年度比で400億円程度減少し約1,100億円となる見込みです。厳しい方向に振れつつあると認識していますが、シェアは世界No.1を維持しています。
 - 海底ケーブルシステムは1つのプロジェクト単位が大きい事業です。今年度は終了となるプロジェクトが多く、次のプロジェクトを繋げていくよう活動していますが、受注や売上のタイミングが遅れているものがあり、第3四半期は前年同期比で減収となりました。しかし、需要は旺盛にあります。
 - 来年度以降については、パソリンクは新興国の需要がどれくらい盛り上がるかによりますが、今年度から大幅に増加することではなく、横ばい程度になる印象です。海底ケーブルシステムについては、売上や受注のタイミングが遅れているものが戻ってくるので、来年度は08年度までの水準まで回復すると考えています。
 - パソリンクの固定費削減については、これまでも継続して行っており、今後も引き続き努力していきます。
- ・ パーソナルソリューション事業の今年度売上予想を前回予想から変更していませんが、携帯電話端末の出荷台数予想は50万台下方修正しています。また営業利益も変更していませんが、この考え方について教えてください。
 - 携帯電話端末については開発費効率化が期を追うごとに効果を出しています。出荷台数が落ちても、損益的大きく影響することないと認識しています。モバイルターミナル分野は利益を出しています。
 - パソコンはWindows7の発売により市況が活発化しています。低価格モデルの人気が一段落し、付加価値のあるパソコンへのニーズが高まっています。パソコンを含むPCその他分野は利益を出しています。

質問者 B

- 第3四半期の営業外損益で偶発債務引当金戻入が44億円計上されていますが、これは何ですか。
 - 海外の関税に関することで当局と交渉中の案件があり、過去に損失を引き当てていたものがありました。今回解決の目処が立ってきたため、想定金額との差額を計上したのが主な要因です。
- 通期予想について、経常利益から当期純損益までの前提を教えてください。
 - 今年度の最大の目標である当期純利益100億円の実現に向けて、様々な可能性を分析していますが、資産の整理を含めて必ず実現したいと考えています。
- 一般的に、特に国内中小企業向けのITサービス事業が厳しいようですが、NECはどのように見ていますか。
 - 大企業向けと比較すると回復感は遅いと実感しています。事業環境は期初の想定どおりで、中小企業向けの市場で多少見通しと比べて増減があったとしても、通期の事業全体に大きな影響は出ない見通しです。

質問者 C

- 第3四半期の営業損失▲75億円について、会社計画比を教えてください。
 - 費用削減効果が計画以上に進捗しており、全般的に若干良いという印象です。売上はほぼ想定どおりでした。
- 今年度の固定費削減計画2,900億円を上回る可能性はありますか。
 - 第3四半期までは、予想を前倒しで進捗しており、2,900億円の固定費削減は達成可能と思っています。全社に危機感が定着してきています。
- ITサービス事業について、通期で前回予想を上回る可能性はありますか。
 - 上回ることができれば良いと思っています。しかし、第3四半期までは非常に安定していますが、第4四半期の通期の売上に占める割合が非常に大きく、目標もそれなりに高いレベルにあると認識しています。

質問者 D

- ITサービス事業は第3四半期まで会社計画通りということですが、第4四半期からの前倒し努力はしていますか。また、新政権になり、補正予算凍結などの影響はありませんか。
 - 当事業は目標達成に向けて、できるだけ案件の前倒しに向けた努力をしています。顧客との関係を重視しつつも、早めの受注・検収に向けて今後も努力していきます。
 - 補正予算凍結や事業仕分けの影響は特にありません。
- 第3四半期の半導体を除くエレクトロンデバイス事業の営業利益の状況について教えてください。
 - NECトーキンは事業構造改革中であり黒字化しています。自動車向けリチウムイオン電池は現在試作レベルであり、今年度の業績にはほとんど影響はありません。

質問者 E

- 企業向けパソコンの価格動向はどうですか。
 - 個人向けと比べると企業向けは数量的にも価格的にも改善が見える状況にありません。企業向けは、個人向けと比べると平均単価の改善に大きな期待は持てないと考えています。

質問者 F

- 携帯電話端末事業の新会社「NECカシオ モバイルコミュニケーションズ」では、スマートフォンでどのような品揃えを展開するのですか。
 - C&Cクラウドの端末として役目を果たしていくことになると思います。Androidを搭載した端末も来年度後半に商品化する予定です。

以上